



Still an unknown brand

But the world's most famous speaker consultant has finally launched his own brand.

TAKT  TOCK

Walk with warm Heart



2021年7月1日取扱開始

そのメールは突然やってきました。「ものすごくイイスピーカーが完成したんだけ聴いてみないか？」

2019年のミュンヘン・HIGH END 2019 のとあるブースで鳴っていたスピーカーBORG(ボーク)は圧巻のサウンドで私の心を鷲掴みにしました。オリジナル AMT ツィーターとオリジナル 260mm のパルプ・コーンの 2WAY から放たれたその音は、トラディショナルなスピーカーのグルーブ感に現代スピーカーの解像度をミックスしたかのような不思議なサウンドで楽しさ満点。私は席を立てなくなりました。名刺交換と話をしてまた驚きが。このブランドは 30 年以上世界中の傑作スピーカーの設計を担当してきたカールハインツ・フィンク氏が初めて自身のブランドとして立ち上げた FINK team だということです。音が良いはずですが、聞けば BORG はペア 450 万。このサウンドなら安いくらいだ！とは思いつつも、その時自分が探していた価格帯とはかけ離れていたこともあり、その時は取り扱いを諦めたのです。

そしてタクトシュトックを設立して間もない 2 月にそのメールはやってきました。「BORG の弟分であるスタンド一体型の KIM(キーム)を開発したんだ。自分達が毎日音楽を楽しむために設計したんだけど、世界中で評判がすごくいい。聴いてみないか？」こんなにうれしいメールはありません。すぐに KIM を取り寄せ、音を出した瞬間に取り扱う事を決定しました。ドイツで聴いた BORG と同じ感動的な"最高に楽しい"サウンドが目の前に現れたのです。あれもこれも聴きたい・・・朝方まで試聴は続きました。

日本では BORG(ボーク ¥4,950,000/ペア・税込)の弟分である KIM (キーム ¥1,870,000/ペア・税込)から取り扱いをスタートします。どうぞご期待ください。

■KARL-HEINZ FINK(カールハインツ・フィンク)

FINK team というスピーカーブランド名は知らなくても、主宰者であるカールハインツ・フィンクの事を知っている人は多いと思います。彼は若くして Hi-Fi 業界で働き始めました。早くから才能を開花させた彼は、スピーカーユニットとスピーカーを専門に設計する FINK AUDIO-CONSULTING を 1986 年に設立し、すぐに世界中でその名を知られるようになりました。

彼は子供のころからドイツのスピーカーよりイギリス製のスピーカーに感銘を受けていました。当時イギリスには素晴らしいスピーカーブランドが多く、世界中で成功していました。彼はドイツに肩を並べるようなブランドが無いと感じており、その思いからドイツで初めて世界的に成功するスピーカーメーカー作るという目標のもと ALR 社を仲間たちと設立するに至ります。そこで運命とも言える出会いがありました。それはグッドマン・AXIOM80 やジョーダン・ワッツのスピーカー設計で知られるスピーカー・エンジニアの故テッド ジョーダンとの出会いです。

二人は意気投合し、協力を約束。日本でも Entry S などが大ヒットとした ALR JORDAN の誕生です。カールハインツはジョーダンの設計技術を学びさらに成長していきます。

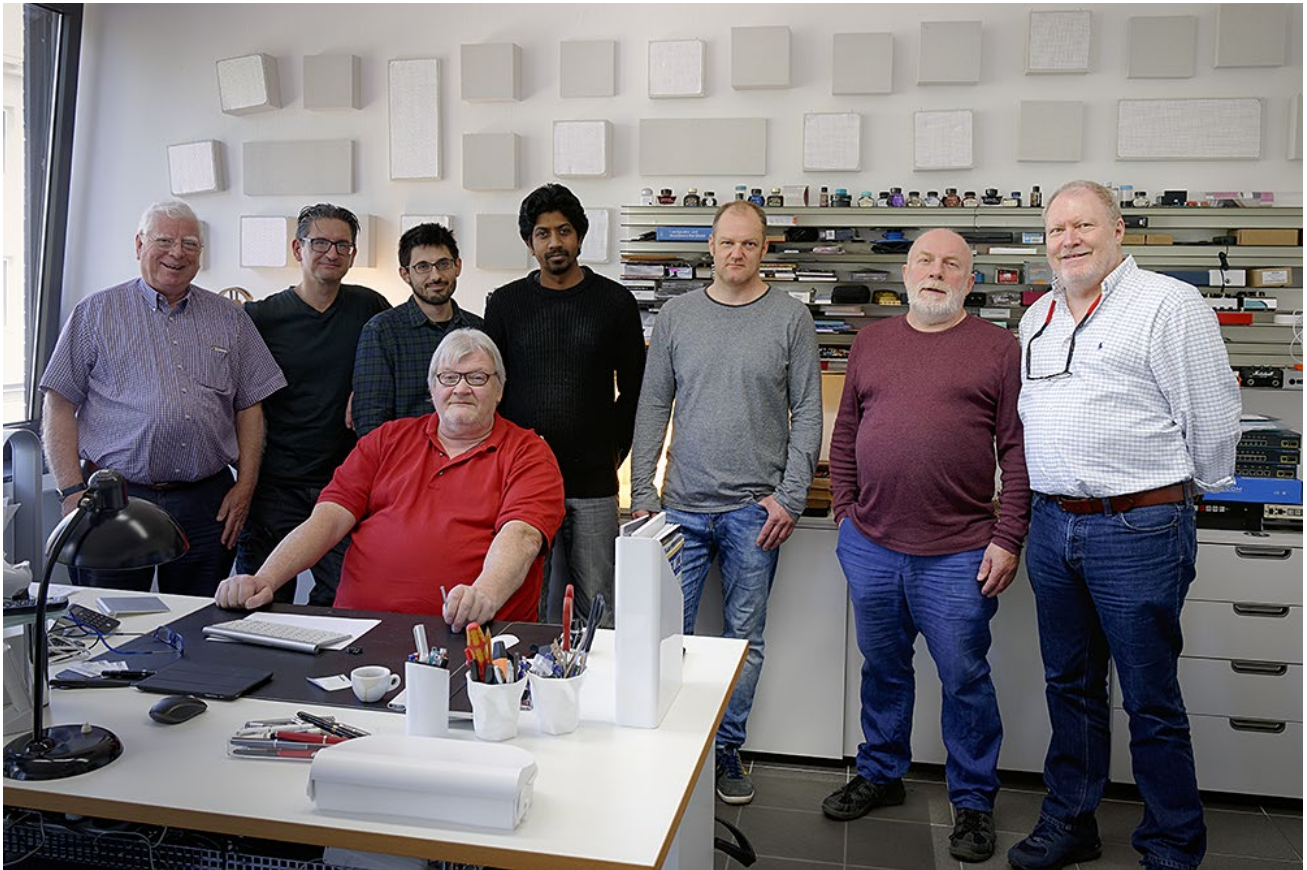


FINK AUDIO-CONSULTING

30 年以上にわたり、FINK AUDIO-CONSULTING は、35 社以上のスピーカーや、ユニットを設計してきました。しかし、彼らは黒子であり契約した会社が FINK の名前をマーケティングに使いたいと思った時のみ、彼の設計である事が明かされます。公表されているブランド名をあげると、**Q Acoustics / Wharfedale / TANNOY / NAIM / MISSION / DENON / Marantz / Boston Acoustics** などなど。彼がいかに有名なブランドの設計を請け負っているかがわかっていただけるでしょう。設計に携わってきたスピーカーの中には軽く 1000 万円を超える製品もありますが、彼はいいです。「コストを度外視したスピ

ーカーを設計の方が比較的楽なのです。ブランドの狙いを理解し、メーカーが望むコスト内で、ブランドが望んだ以上のスピーカーを設計する。これこそが我々の価値だと思っています」

■ FINK AUDIO - CONSULTING



カールハイツは、ヨーロッパで最も成功した音響設計コンサルタント会社を所有することができたのは、怠け者だったからだと考えています。問題を解決するためには、肉体労働、つまり実際に作って聴くの繰り返しではなく頭を使うのです。彼は同じ作業を繰り返し行うことを嫌い、設計、モデリング、測定用のコンピュータやアプリケーションに莫大な投資をしてきました。品質管理のためだけに専用のクリップシステムを用意するなど他社からはクレイジーとさえ言われる、世界最高の設備が揃っているのです。この設備により FINK AUDIO - CONSULTING の顧客は 35 社にもなる設計を担当したユニットメーカーやスピーカーブランドだけではなくありません。設計に携わっていないスピーカーブランドでさえ、FINK AUDIO - CONSULTING の設備で測定を行うために彼らの会社があるエッセンにやってきます。

しかし、カールハイツは設備以上に投資してきたのは人そのものであると考えています。つまりチームであり、一流のスタッフが揃っているからこそ、自身は得意な事に集中できる。他の人に任せる事ができる天才がカールハイツなのです。現在、FINK AUDIO - CONSULTING には、11人のスタッフが常駐しています。その全員が様々な分野のスペシャリスト。その一部をご紹介します。



Norbert Theisges (ノルベルト・テイスゲス)

Norbert は FINK team プロジェクトの中心的存在です。高音質を実現するキャビネット製作に 20 年以上の経験を持つ熟練工であり、FINK team の木材工場を一手に管理しています。また、生産と品質管理の調整も行っています。また、リスニングパネルのスペシャリストでもあり、オーディオショウなどでのパネル設置などにも長けた人物です。

Markus Strunk (マーカス・シュトランク)

Markus は、確固たる科学的背景を持ち、あらゆる種類の素材について長い経験を持つ、業界屈指の振動の専門家です。キャビネットのシミュレーションを常に行っており、彼の研究は全てのキャビネット構造の基礎となっています。



David Jefferys (デビッド・ジェフェリーズ)

2017 年に FINK Team に参加した David は、これまで Tannoy、Mordaunt Short、Epos、Q Acoustics で世界的な販売の責任者を歴任してきました。国際市場でのディストリビューターに関する深い知識を持ち、最適なパートナーを見つけるだけでなく、国際的なオーディオ環境の変化や情勢を見極める能力に長けています。

Shauk Khan (シャウク・カーン)

ディレイ補正などの信号処理に関連と、最新の DSP ソリューションに関するその他の開発プログラムを担当。また、すべての Klippel(クリッペル / 測定)デバイスの責任者であり、ラボの様々なシステムで多くの測定を行っています。

Nicola Paparella (ニコラ・パパレッラ)

ユニット・シミュレーションを担当。COMSOL(構造力学、流体力学、化学反応工学、電熱、音響などの測定解析が可能な CAE ソフト)部門を運営し、ユニットにとって重要なより良いソリューションを常に研究しています。ユニットメーカーにも多くの顧客をもつ FINK team にとって、非常に重要な人物です。

Idriss Nwagoum (イドリス ヌワグーム)

メカニカルエンジニアリングと図面を担当。シミュレーションプロセスの基本的な作業を行い、工場や組み立てのための生産図面をすべて作成しています。また、サンプルや新しいアイテムをテストするための 3D プリントマシンの操作も担当しています。

Bernd Röckert (ベルント・ロッカー)

お客様にお届けする前のスピーカーの組み立てとテストを担当。生産ラインから出荷されるすべてのスピーカーは彼の手を通ります。

■FINK team

様々なスピーカーやユニットの設計を担当し、世界中に顧客を持っていた FINK AUDIO – CONSULTING ですが、FINK 本人の名を冠したブランドを起す事なくおよそ 30 年が経過しました。

2010 年代の半ば、長年親交のあった石渡 健(KEN ISHIWATA)氏が、自身の新しいアンプを発表するにあたり、最適なスピーカーを製作してほしいとカールハイツに相談しました。この事が FINK team 誕生のきっかけとなります。カールハイツは、彼のために非常に大きなコンセプトモデルを製作。そのスピーカーは 2016 年に彼のアンプと共にミュンヘンショウでお披露目されました。カールハイツ本人はこのスピーカーを発売する気はなかったのですが、このスピーカーは大きな反響を呼び、彼の予想に反して多数の注文が入ることとなります。そこでこのコンセプトモデルの外観などを改良し、正規の製品として発表したのが、現在のトップモデル WM-4。FINK team の誕生です。この WM-4 はあまりに大きく、高額な事もあり現在は受注を受けてから製作する特注モデルとなっています。

その後、2018 年には、メインモデル BORG(ボグ)を発表。ミュンヘンショウで自身のブースを始めて持つ事となります。この BORG は、かのカールハイツ・フィンクが起こしたブランドという事実と、その理にかなったデザイン、縦長のオリジナル・ハイルドライバーとパルプ・コーンによる圧倒的なサウンドでセンセーショナルなデビューを果たします。翌年の Munich Hi End 2019 ではパンフレットにも抜擢されさらに注目を集めました。

彼らは BORG で大きな成功を収めたのち、自分達自身がリラックスして音楽を楽しめる、部屋になじむ最高のスピーカーを作ろうと決意します。そして 2020 年末に発表されたのが KIM(キム)です。使用されるユニットは BORG と同じく AMT ツィーターとパルプ・コーンの組み合わせですが、もちろん KIM 専用設計。素晴らしいキャビネット構造と、振動を逃がす事に特化した一体型スタンド。世界中で話題になるには時間はかかりませんでした。WEB で FINK team KIM と検索すれば、多くの絶賛記事が現れます。その中には、KIM を讃えるためだけに新たな賞を設立した雑誌すら存在しているのです。

株式会社タクトシュトックとして、FINK team の日本におけるディストリビューターに選ばれた事は本当に光栄です。この素晴らしいブランドを日本のオーディオファンの皆様に少しでも知っていただけるよう努力してまいります。まずは 2020 年の新作 KIM (キム)から取り扱いをスタートします。

FINK team は 2021 年 7 月から発売開始予定。

どうぞご期待ください。





KIM (キーム) ¥1,870,000 / ペア(税込)

モデル名:KIM/ 型式:2ウェイ・バスレフ型 / ユニット:1×110mm AMT 1×203mm PULP CONE (38mm 径ボイスコイル) / 再生周波数特性:35Hz-25kHz (-6dB) / インピーダンス:8Ω(最低インピーダンス:[5.9Ω@160Hz](#)) / 能率:86 dB @ 2.83 V / 1 m / 全高調波歪:0.2 % THD @1W / クロスオーバー:2200 Hz / 重量:25,1 kg(台 / 固定スタンド含む) / 仕上げ:4種類から選択可能 / その他特注色あり / キャビネット:複数のストラック・アブソーバーを搭載したキャビネット。ダンピングされた2層構造サンドイッチ・パネル / スタンド:一体型 / オプションスイッチ:3 ポジション ツィーターレベル、3 ポジション ウーファーダンピング



世界中の多くの賞を受賞



White / Steel Grey Front



White / American Walnut



Amarra / Black Front



Matt Black

4種類から選べるスタンダードフィニッシュ



BORG(ボーク) ¥4,950,000 / ペア (2021 年内 日本発売予定)

TAKT  **TOCK**
Walk with warm Heart

株式会社タクトシュトック

東京都中野区鷺宮 6-16-15 TEL : 03-5848-2239 FAX : 03-5848-2238